

## はにい『子どもが輝く毎日をともにデザインする』

令和8年2月16日

愛川町立愛川東中学校の校内研究全体会。  
会場に足を踏み入ると、学校全体を包み込む「温かく前向きな空気感」が真っ先に伝わってくる。校長と教頭が言葉にしたのは、学校教育目標である「ともに学び、ともに輝く学校」を、改めて意識して研究を進めていく全体の方針についてだった。その言葉を受け止める教員一人ひとりのまなざしには強い意



志が宿る。その後のグループ協議では、「いかにして子どもたちを輝かせるか」について、若手からベテランまで、それぞれの立場の垣根を越えた活発な議論が交わされていた。学校がひとつのチームとして、同じ未来を見据える一体感がそこには確かにある。

この一体感を支えているのは、活発な議論の中においても、相手の意見を真っ向から否定せず、まずは受け止めようとする教員一人ひとりの姿勢である。こうした「相手を知り、受け止める」姿勢は、校内のあらゆる場面に波及していく。すべての子どもたちにとって、互いを認め合う文化は、自分らしく存在できる心理的な安全性を守るための大切な土壌となる。教員が対話を重ね、自らの実践を磨き続ける姿そのものが、子どもたちが安心して学び、高め合える環境を形作っていく。



来年度からは、教員自らが「授業」「学級経営」「学校行事」という3つの領域から自らの探究テーマを選ぶ「自己選択型」の研究推進が始まる。一人ひとりの主体性を尊重し、それぞれの専門性や関心を起点とするこの試みは、組織全体としての活力を内側から引き出し、次年度の更なる飛躍を期待させる力強さに満ちている。

校長が示す明確なビジョンと、それに応え、自ら歩み出そうとする教員の挑戦。ここで芽吹いているこの好循環は、やがて多くの子どもたちの輝きへと結実していく。教員一人ひとりが考え、ともに学ぼうとする姿勢が、学校の日常をより豊かに変えていく。